家庭数配付

さいたま市立宮原小学校
学校だより

令和 6年 6月28日 第4号

学校教育目標　心身ともに健やかで主体的に生きる子どもの育成

・たがいに努める子（やる気）・たがいにきたえる子（元気）・たがいに手をとる子（勇気）

こまった…

井 上　雅 史

例年に比べ遅い梅雨入りとなりました。梅雨といえば、しとしと降る雨の下で美しく咲く紫陽花とその葉の上にちょこんと乗ったカタツムリ…などというイメージはもう昔のことなのでしょうか。豪雨や酷暑の厳しい季節になってきました。夏休みまであとわずかですが、児童が健康に笑顔で 1 学期を全うできるよう、教職員も一層笑顔に磨きをかけて頑張りたいと思います。

さて、先月は「子どもは優秀な学び手」という言葉をご紹介しました。子どもは生まれた時からやる気に溢れ、自分で学ぶ力をもっているということです。一方、言うことを聞かない子、不適切な行動をする子どもたちを「こまった子」と表現することがあります。しかし、「『こまった子』はいない。『こまっている子』がいるだけだ。」という考え方があります。

では、この「こまっている子」は何にこまっているのでしょうか。それは、周囲の人が正しいと思っている行動をすることが、その子にとってはとてつもない重労働になっているということです。その原因は一人ひとり違いますが、決して「こまった」行動をしたいのではなく、多くの人が正しいと言っている行動を、その子はうまくできなくて「こまって」いるのです。

例えば、「何度言ったらわかるの！」と子どもに対して言ったことはないでしょうか。「毎日同じことを言い聞かせているが、なかなか効果が見られない。」と感じている方もいらっしゃると思います。実は、子ども自身は、その言われる内容や言われ続ける理由をきちんと理解できている場合がほとんどです。しかし、個人差はもちろんありますが、行動を簡単に修正できないのが子どもなのです。分かっているけれどできないのです。そのとき「いつになったらできるの！」と強く言われると、その瞬間からお互いの間に負の感情が湧き上がってきます。そうすると、必要な内容も子どもの心には届かなくなります。そして、「こまった(こまっている)子」の姿を見た大人がまた強く言う…負のスパイラルに陥っていきます。

子どもは全員が同じように成長していくわけではありません。世の中にはいろいろな子どもがいて、それぞれ得意・不得意があり、その成長のスピードも様々です。得意・不得意というと勉強や運動などを思い浮かべやすいですが、物の考え方や人間関係のスキルについても同様です。大人でも、人づきあいが得意な人も苦手な人もいます。しかし、社会生活のそれぞれの場所で皆さん努力されているのではないでしょうか。同じ様に「こまっている子」も、その子なりに一生懸命頑張っているのです。そう我々大人が捉えていくことが、その子が幸せに成長するための第一歩になるのではないでしょうか。そして、その子に関わる全ての大人がそう捉えることが、その子とその周りの子の将来の幸せにつながっていくと考えています。

どの様な場面でも、大人の言葉が子どもの心に届き、暖かな信頼関係を築くためには、子どもの目線で大人が考えることが必要です。共感的な姿勢を大人がもつことです。そんなにのんびり構えてはいられないと思う方もいると思います。それでも、子どもの心身の健やかな成長のためには、子供とじっくり向き合うことが、やはり大切だと考えます。